

ISO/IEC/JIS Plastics

事務局便り 2015 年 12 月

ISO/TC 61/SC 13 (複合材及び強化用繊維) 分野の最近の動向

1. ISO/TC 61/SC 13 の構成及び年次会議

ISO/TC 61/SC 13 では、繊維強化材料及び強化用繊維（ガラス繊維、炭素繊維、等）関係の規格の制定・改正等を行っている。

2006 年より日本が SC13 の幹事国となって運営を担っており、日本にとって重要なコミッティーの一つである。

SC 13 は現在、89 規格を有し、P-メンバー（投票権有す）は 17 カ国、O-メンバー（オブザーバー）は 12 カ国であり、TC 61 傘下の 10 個の SC の中では比較的多くの規格を有している。

WG（作業グループ）は、表 1 に示す 2 つが現在活動している。

表 1—ISO/TC 61/SC 13 の WG

WG	コンビナー	タイトル
WG 1	日本	強化材及びその製品
WG 2	英国	積層・複合材料

SC 13 では、日本と英国が主体に、規格開発等、活動を行っている。

毎年、年 1 回 9 月又は 10 月に ISO/TC 61 年次国際会議が開催され、その期間内に SC 13 関連の会議も行われる。

本年（2015 年）は、10 月 5 日～9 日に第 64 回 ISO/TC 61 年次国際会議がインドのニューデリーで開催される（本原稿草稿時にはまだ開催されていない）。SC 13 関連では、10 月 7 日に SC 13 コンビナー会議、SC 13/WG 1 会議、10 月 8 日に SC 13/WG 2 会議、SC 13 プレナリー会議が開催される予定である。年次会議にて審議される事項を中心に最近の SC 13 関連の規格開発動向についてトピックスを以下に記す。なお、規格の名称は簡略化（又は省略）して示す。

2. ISO/TC 61/SC 13 の審議・活動状況

2-1. SC 13/WG 1（強化材及びその製品）

(a) 開発中の規格

次の 2 規格は 2013 年の定期見直しの結果、追補改正が決まった。追補の FDIS 投票が行われ、いずれも賛成多数で承認された。近々、追補が発行される予定である。

ISO 2078（ガラス織物・糸・表示方法）<中国>

ISO 15039（ガラス織物・サイズ・溶解度）<SC13 事務局>

次の 3 規格については、追補発行による引用規格の変更を行うため、追補の CD 投票を行った。賛成多数であり、ニューデリー会議で次段階（DIS 投票）への進捗の承認を得る予定である。

ISO 2797（ガラス織物・ヒソグ仕様）<SC13 事務局>

ISO 3616（ガラス織物厚さ）<SC13 事務局>

ISO 5025（織物長・幅試験）<SC13 事務局>

(b) 定期見直し

2014年及び2015年の定期見直しで合計11件の見直し投票が実施された。SC13事務局の意向は全て"確認"としたい。ニューデリー会議で審議する。

(c) 新規提案

ニューデリー会議にて、日本より"プリプレグの繊維量試験方法"について予備提案を行う。NP投票進捗の承認を得ることが目標である。

2-2. SC 13/WG 2 (積層・複合材料)

(a) 開発中の規格

ISO 19927 (二重梁試験による層間強度) <英国>

CD投票が行われ、賛成多数であった。ニューデリー会議にて投票結果及び今後の進捗について審議する。

(b) 定期見直し

2014年及び2015年の定期見直しで合計4件の見直し投票が実施された。ニューデリー会議で審議する。

(c) 新規提案

2014年のホノルル会議にて、CFRPの層間物性(引張、曲げ、圧縮)の測定方法に関する規格について、次のように2つのパートとして日本と英国が別々に開発することとなった。

CFRP 層間物性の求め方

Part 1: 引張、圧縮特性を直接求める方法 <英国>

Part 2: 寸法効果を考慮に入れた曲げ試験<日本>

日本提案は既にNP投票(NP 20795-2)中であり、ニューデリー会議で審議し、次段階(CD投票)へ進捗させる予定である。

3. ISO/TC 61/SC 13 (複合材及び強化繊維)

(a) 新規提案

2014年のホノルル会議のSC13会議にて、日本は、複合材(CFRP等)と金属の接合に関する規格(電界腐食や接合強度の評価方法、等)を審議する新たなWGを立ち上げることを提案した。新規のWGの名称は「Composites and metal assemblies (複合材と金属のアセンブリ)」とした。メンバーからは、新規WGの適用範囲(Scope)を示して欲しいとの要請があった。

新規WGの適用範囲を文書にして、SC13メンバーに回付した。これを基に10月のニューデリー会議にて審議し、新規WG設立の承認を得たいと考えている。

以上